

旅のひろば

2016年 春号

発行 友の会・ピアージュ

460-0011 名古屋市中区大須4-1-9 菱水ビル (株)富士ツアー社内

☎ 0120-898928 ☎ 052-261-4621 Fax 052-251-6913

http://www.kirameki-tour.jp

eメール:mail@kirameki-tour.io

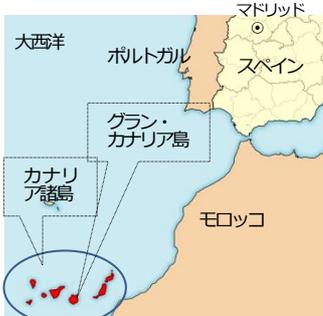
カナリア諸島（スペイン）訪問記（2015年12月1日～3日）

杉崎伊津子、杉山きく子、横山節子

そもそも私たちがこの聞き慣れない島を訪れたきっかけは、“アフリカ沖、カナリア諸島に日本国憲法9条の碑がある！？”という朝日新聞の伊藤千尋元記者の講演を10年ほど前に聞き、「どこなんだ？スペインにある！」と半信半疑で時間が過ぎました。

かねてから親しくさせていただいている愛知県立大学の川畑専准教授が、マドリッドに留学されることになり、「僕がスペインにいる間に来るならぜひカナリア諸島を案内しましょう」という嬉しい言葉ののって一行6人で出かけた。

まず、スペイン・マドリッドへ。昼間は美術解説に詳しいガイドの案内でプラド美術館の世界有数の名画を鑑賞し、夜はクリスマスを迎えるイルミネーションの美しいデルタ・ソル広場や街の夜景を楽しんだ。



翌日、マドリッドからさらに3時間飛行、アフリカ沖大西洋に出たところに七つの島から成るスペイン領土のカナリア諸島に到着。

カナリアという名は、ローマ帝国時代に遠征軍が攻め入ると、島は野犬だらけ、当時のラテン語で「犬（カン）の島（アリア）」からカナリアという名がついたそうだ。ここで発見された可愛い小鳥につけられた名があのカナリアともいう。私たちが着いたグラン・カナリア島は二番目に大きい島で東京ほどの面積だ。ヨーロッパ人にとって日本人がよく出かけるハワイのような人気のリゾート地である。

12月1日というのにここでは22℃と暖かい。空港に降りたとたん沖縄に似ていると直感しました。しかしここには、基地はありません。まさに常春の楽園。港町の人々は純朴で心が和む。海辺に面したレストランの食事もおいしい。海岸沿いの通り道は延々と美しいタイルが敷かれ、ベンチで憩う人、ウォーキングを楽しむ人、バイオリンを演奏する人もいた。海岸に降りて水着姿で散歩する人、泳ぐ人、遠くに浮ぶヨットを眺めながらしばしのひと時をうっとりとして過ごす。

翌日、いよいよ「日本国憲法九条の碑」があるテルデ市を目指して高速バスに乗る。高速道路で30分、テルデ市はこの島で2番目に大きな市で人口は15万人ほど。結構、起伏が激しく、帰途の公共バスはジェットコースターのようにスピードを出して



グラン・カナリア海岸

走り抜け、私たちは奇声を上げてしまった。

スペイン語堪能な川畑先生のが案内で現地に着くと、テルデ市の市議員（女性）と観光協会の人（男性）が迎えてくれた。

「なぜ、ここ（大西洋の島）に日本の憲法の記念碑があるのか」そのいきさつを聞いた。

きっかけは、空港と市内を結ぶ高速道路が建設されたさい、街の中心部に空き地ができたこと。当時の市長がここを市民が平和について考える広場にしようと思いついた。1996年、この広場の名を「ヒロシマ・ナガサキ広場」と命名。それは、第二次世界大戦で最も悲惨だったのが原爆の被害を受けたこの二つの都市の人々でそれを記憶し、伝えることがこれからの世界の平和につながることを確認。

広場の面積は400平方メートル。四角い広場の真ん中に大木が一本、正面の壁に記念碑があった。畳より少し大きなプレートに白いタイルとさらに黄色や青色で飾られたタイルの縁のなかに鮮やかな青い塗料で書かれた文字。憲法九条の碑だった。記念碑の一番上にはスペイン語で「ヒロシマ・ナガサキ広場」と書かれ、その下に「日本国憲法九条」がスペイン語でつづられてあった。ここはスペインだ。あらためて気づかされて心の重みを感じた。記念碑の死ぬことを強制されてしまった末路はあまりにも悲惨で筆舌に尽くしがたい。

落成式は1996年1月。市長、市議会議員の全員の他、島民1000人が参加したという。日本から広島市長と長崎市長の

メッセージも寄せられた。テルデ市は非核地帯宣言もしている。セレモニー開催の一週間、映画「はだしのゲン」や原爆写真展も行われ、多くの市民が集い、鑑賞した。



ヒロシマ・ナガサキ広場

カナリア諸島はスペインの歴史で名高い内戦の発祥の地。3年の内戦のあと勝利したフランコ将軍が総統となって1936年から1975年に病死するまで軍事独裁政権が続いた。

その間、国民の暗黒の時代が続いた。解放後、社会は急速に民主化に向かったという。三年後には新憲法が生まれて議会制民主主義が回復した。市民はリベラル色が強く、平和への関心も高まった。戦争の苦しみやもがき、悲しみを若者たちに伝えていくために学校での平和教育が大切と力説する。彼らの話しは、途切れること無く独裁政権時代の様子やものを言うこともできない自身のつらい体験などを情熱的に語ってくれた。

お礼に市会議員の彼女に九条のペンダントをプレゼントしたら「グラシャアス！」(ありがとう)胸のペンダントがさらに輝いた。たっぴりと解説を聞いて別れ際、振り向くと二人は手を繋いで

・・・ああ、これもスペインかとうらやましく？楽しく思った。こんな有意義な話を聞き、第9条が瀕死の時に貴重な交流になりました。改めて「憲法第9条は世界の宝」なんだと痛感しました。

後日談、伊藤千尋記者にグラン・カナリアへ行ってきたと報告したら、「これまで、多くの人にこの話をしたが、現地へ行った人は極めて少ない。」と驚かれました。



マドリッドの夜景

写真撮影：杉崎数之氏

パラオ・ペリリュー島とサイパン ～歴史検証と慰霊の旅6日間～

片山 徳崇 (青森県)

写真撮影：吉水啓教氏

1日目は、日本からパラオ・コロール島までの移動であった。順調にホテルに到着。12月になり東京は寒かったが、パラオは30度近くだった。

翌朝、青空の下、コロール島からボートに乗り、数々の島々を1時間ほど眺めながら、日米激戦の地、ペリリュー島の北皮止場に到着。ガイドのサキさんから説明を受けながら専用バスで戦跡を巡る。

戦没者慰霊碑が並ぶ場所で、読経をして供養をする。英霊の慰霊碑には、功績に感謝する文言、忠誠心を顕彰する文言が多い。「平和の為に戦争をする」という考えや「殉死した英雄を讃える」と戦闘を美化する行為は、世界中存在するし、時代を隔てて現在も行われている。ペリリュー島の戦いは、日米双方、自国の勇士を宣伝し、さらに苛烈に新たな戦闘へと突き進んでいく。これはペリリュー島の戦いに限ったことでは無いが、戦争継続、拡大に使われる政治宣伝である。

昭和天皇は11回もお褒めの言葉を贈られている。士気が下がるような都合の悪い情報は自国民には伏せられる。日本側の証言録は生存者が少ないことや生存者がいても口を開けずにいたため最前線で戦う兵士の悶絶した姿は見えにくい。遺体損壊、投降者の処刑や殺害、精神異常者の殺害など発生した。「人間が壊れてしまっていた」と生き残った米兵が語っている。そのような残虐な戦争を宗教指導者たちは正当化して協力を。暴力を正当化して推し進める方法は、形を変えて今も行われているのでは無いだろうか。

博物館、日本軍総司令部跡、日本軍95式軽戦車などを見学しながら島を南下し、飛行場滑走路近くのオレンジビーチという米軍上陸地点に立った。上陸日の1944年9月15日、血の海と化した場所である。当時、気温は40度を優に超える。

南北9km、東西3km、周囲26kmの小さい島で、日米の精鋭部隊が74日間の熾烈な戦闘の結果、日本兵10,022人、米兵1,684人が殺された。日本軍はほぼ全滅で、最後は弾薬も食料も尽きていた。日本兵の生存者はたったの34人。



ペリリュー島



米軍水陸戦車 (ペリリュー島)

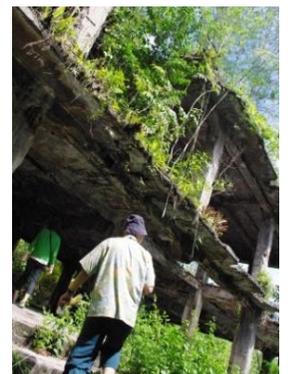
ペリリュー島から生還した日米の兵士が、数十年を経た後、握手して抱き合っていた映像が脳裏に浮かんだ。

集団殺戮を要請する国家の枠を離れれば、武器を捨てて握手して語り合うことも可能である。人類仲よく生きるためにも、戦争に至る社会構造や人間の精神構造から目をそらすわけにはいかないと学んだ。

弁当を食べてから、南端のペリリュー平和記念公園で、南洋群島で戦没した諸霊に供養をした。島の中腹に移動すると新しい石で装いをしたペリリュー神社があった。歩いて移動して、ペリリュー守備隊の隊長である中川州男大佐が自決した洞窟陣地にたどり着き、廻向をした。

最後まで持久戦を命令したまま、軍旗と機密書類を焼却し、自決した中川大佐。軍隊は命令に従い戦後も奮闘することになる。

徒歩での移動中に「英霊への感謝」と「武勲の顕彰」が記されていた碑文があった。この一帯は、大東亜戦争を賛美する場所になっているように見える。道を少し外れると、不発弾に注意するよう警告表示があった。



日本軍総司令部跡 (ペリリュー島)

オーストラリア軍が不発弾を撤去して安全な場所を紅白の杭で印をつけたと聞いた。戦後、時が経ち島の景色は変わっている。緑の茂った島や周辺の海底にある不発弾の処理にはどれくらいの歳月がかかるのだろうか。地雷もあるようだ。毒ガス弾もあるかも知れない。穏やかに住んでいたであろう土地に、武器を持った他国の人々が入ってきて基地を作り戦争をして、島の暮らしを破壊してしまった。

ペリリュー島には、まだ日本兵約2,500人の遺骨があるという。凄惨な死を遂げた草むす屍は、私たちに何を願っているのだろうか。

帰りのボートは重苦しい空気が漂っていた。遠ざかっていくペリリューの小島を見ながら、人間の罪業の深さを痛感するとともに、二度と島嶼守備隊で若人を戦場に行かせてはいけないとの思いが湧いてきた。

3日目はコロール島の戦跡見学と観光をした。島の地形や特徴、侵略された歴史、現在の住民の生活様式が分かり、支配構造を知る上で勉強になった。深夜から移動をしてサイパンに到着し、4日目は午前中から、ヨネコさんのガイドにより、サイパン島の戦跡を専用バスで巡った。

5日目は午前中に参加者で旅行に感じた事を述べ合い、意見交換をした。昼食に出かけて奉安殿跡、南洋寺跡を見学しプールや散歩を楽しんだ。

6日目は最終日で帰りの旅路。参加者みんな無事日本に帰国できた。添乗員が気遣って誘導してくれたおかげで安心して旅行できた。

サイパン島で印象深かったのは、兵士住民約1万人ともいわれる人々が飛び降りたり、仲間を殺し合ったりした断崖のバンザイクリフとスーサイドクリフである。バンザイクリフでは、青い海が血で茶色に濁ったという。多くの人が身を投げて、死体で埋め尽くされた。慰霊の場所なのか、英霊の顕彰場所なのか、宗教団体の宣伝なのか、いろいろな石碑が立ち並んでいる。



日本軍戦車 (ペリリュー島)



ゼロ戦 (ペリリュー島)

石碑を壊す観光客がいて困っていると聞いた。

海、空、岸壁が一面見事に見渡せる絶景の地で、観光客がにぎわう雰囲気と石碑の群とが混在している様子は奇妙であった。

車で数分移動したスーサイドクリフの崖の下には、誰かが建てた小さい墓碑がいくつもあった。ここに飛び落ちて死んだ人の為に建てられたのであろう。それを覆い隠すように巨大で立派な戦没者の碑を日本政府が建ててある。参加者とともに、小さい墓碑の前で供養の一座を設けた。

「南洋の東京」と呼ばれたサイパン島は、「豊かで楽しかった。歓楽街が大賑わいだった。」と伝え聞く。1944年6月15日の米軍上陸から約1ヶ月弱の戦いで、日本兵41,244人、現地人を含む武器を持たない民間人約1万人、米兵3,441人以上が死亡した。亡くなった民間人の6割は沖縄県の出身者であった。

ペリリュー島やサイパン島を「忘れられた島」という表現を使って紹介されたりする。戦後70年目、天皇陛下はご自身の誕生日でこのように仰られた。「年々、戦争を知らない世代が増加していきますが、先の戦争のことを十分に知り、考えを深めていくことが日本の将来にとって極めて大切なことと思います。」

戦争は人間が起こすものである。無関心でいることは戦争に協力することにつながる。民族主義、国家主義に盲目にならないで、他を害さず主体的に考えて生きる自由を広げていくことが大切だと考えている。その為にも歴史検証を通して、人間の本質を学び、人類の歴史と未来に対する考察が必要である。正しい情報が失われなければ、原因と対策を創造できない。

住民が死を強いられた島、サイパン。持久戦で壮絶な戦闘をし、捨て石とされた島、ペリリュー。南洋群島で起こった惨劇の実相を知り、島々で殺された一人一人の最期を思うと、涙が込み上げてくる。戦争に突き進むような経済の仕組みや排他的な集団思想が蔓延している昨今。日本は戦闘開始の法整備は完了している。今だからこそ、なおさら、戦争について学び、自由に会話する機会を大切にしたい。人類が争わず平和に生存するために。



米軍上陸海岸オレンジビーチ (ペリリュー島)



写真は、左から、戦争博物館、慰霊碑=みたま、中川大佐自決の地



ツアーアンケートより

- ※数多くの戦跡を通して、戦士の残酷性、生命のあり方について、戦後日本のあり方について考えさせられた。
- ※美しい風景、多くの観光客、70年という年月などは、当時の凄惨な状況を想像することが難しくなっていますが、実際の場所に立ち、自分が同じ立場ならばどう行動できるかを考えることができる点で、現地に赴く重要性を改めて思いました。
- ※都合の良い情報しか聞き入れなかったり、本当の実像を教えないメディアや政府に追従してゆくことのもたらす結果はあまりにも恐ろしく、どうにもできない、動けない姿になるのだと深く考えさせられる。
- ※この人間社会において、どうすれば世界中の人が、平和に生きようと思うようになるのか、実現するのは不可能だろうけど、やはり努力をしなければいけないとおもいます。
- ※コロールでもペリリューでもサイパンでも、経済進出、武力進出によって、言語、文化、宗教などを強制し、固有の文化を破壊し、すべての人間の生存基本を破壊した罪悪をみる事ができた。



●ドイツの脱原発倫理委員会

- ☆10年以内に、原子力エネルギーの利用から撤退する
- ☆ドイツ社会はこの目標のため、必要な対策に取り組む義務がある
- ☆連邦議会は責任をもってエネルギー大転換の目標を設定し、最大限の効果的政策を各州との連携で進める

この三つ、2011年5月にドイツの「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」がメルケル首相に提出・提言した報告書の結論だ。第一次エネルギーは、3種類しか無い。「化石燃料」（石油、石炭、天然ガス、シェールオイル、メタンハイドレード、オイルサンドなど）と、「再生可能エネルギー」（水力、風力、地熱、バイオマス、太陽光、太陽熱、潮力、波力など）、そして「原子力エネルギー」。倫理委員会は、「原子力エネルギー」から「再生可能エネルギー」へ大転換する、大転換できる、と提言した。

この委員会、311東日本大震災の翌月（2011年4月4日）、メルケル首相が設置したもの。原子力の利用を止めることの倫理的意義とそれに関する諸問題の検討、原子力と化石燃料に代わる代替エネルギーについての検討、そして将来のビジョンを描くこと。これが委員会の任務だ。

委員は17名。委員長は政治家（元ドイツ環境大臣、元UNEP事務局長）と研究者の二人。あとは、大学教授、環境問題に取り組む人、教会関係者、企業並びに労組関係者など多分野から。その中には、原子力の専門家や電力会社関係の人は一人もいない。どのようなエネルギーが提供されるべきかは、電力会社ではなく、「社会が決めるべきだ」、という考え方が根底にあるから。安倍内閣が設置する各種の私的諮問会議や学識者懇談会などの違いが、歴然！

委員会は、設置後約2ヵ月間集中して検討。そして2011年5月30日、メルケル首相に報告書を提出した。結論に至った委員会の基本的な考え方は、次の六つ。

- ①原発の安全性が高くても、事故は起こり得る
- ②原発は事故が起きると、他のどんなエネルギーよりも危険
- ③次の世代に廃棄物処理などを残すことは倫理的問題
- ④原子力より安全なエネルギー源が存在する
- ⑤地球温暖化問題があるので、化石燃料を代替として使うことは解決策ではない

- ⑥再生可能エネルギー普及と
エネルギー効率化政策で、原子力を段階的にゼロにしてい
くことは、将来の経済のため
にも大きなチャンス

なるほど、納得！ 大変明快です。
こうすることは、現在と未来の
「自然」と「人類」に対する責
任だ、としている。



●ドイツ原発政策の変遷・経緯



ミランダ・シュラースさんのレクチャー

私たちは、昨年11月14日、この委員会メンバーであるミランダ・シュラースさんに会って直接話を聞くことができました。

西ドイツが原発導入を決めたのは、1973年のオイルショック後。エネルギー安定供給のためだった。日本は、米国からの濃縮ウラン供与と対日原子力援助申出を受けて、1955年に原発導入を決定。最初の原発稼働は、ドイツが1975年、日本が1963年の東海村。

東西冷戦の前線となっていた西ドイツでは、1970年代に反原子力運動と平和運動が結びつき、1980年代の「原発停止・平和推進・男女平等」をマニフェストとする緑の党誕生へと繋がっていく。日本は、米国からの支援を受けて、岸・池田・佐藤・田中・三木・福田・大平内閣と続く自民党政権が、原発継続と拡大政策を踏襲。原発列島となった。

ドイツのエネルギー政策に大きな影響を与えたのが、1986年4月のチェルノブイリ原発事故。1,000キロ離れたドイツにも、放射能が届く。市民とくに母親が子どもたちの健康を心配して立ち上がり、反原発・脱原発運動が浸透・拡大していく。市民が政府を、政治を突き動かした。これなしには、前進はない。

エコロジー政党として1980年に再出発した小政党の緑の党は、チェルノブイリ事故後、議席を増やす。そして、1998～2005年の7年間、社会民主党（SPD）と連立政権を組む。その間の2000年、再生可能エネルギー法（EEG）を制定。シュレーダー首相は、当時17基あった原発を「2022年までに全廃する」と表明し、法で規定した。使用済み核燃料の処分場解決策が無かったことも大きな要因となった。

一方の日本は、この頃、どうだったか。自民党政権（1999年以降は自公政権）は、1980年代後半から大々的に宣伝されたオール電化住宅に代表されるように、ガス・石油を室内で使用しないことが安全・クリーン・省エネであるとして、電力消費量が増大。安全神話は定着して原発は増産の一途を辿り、2005年に至るまで、13道県で計54基の原発が地震列島に点在することになっていった。

●311 東京電力福島第一原発事故後

“日本のような技術の高い国でさえ、こうした被害が起きてしまった。ドイツは昨年脱原発の時期を延長したが、考え直すべきだ”
311 東京電力福島第一原発事故直後、メルケル首相はこう述べた。福島事故の半年前（2010 年秋）、メルケル首相は原発稼働期間を 2034 年まで延長することを決定していた。2000 年にシュレーダー首相が再生可能エネルギー法を制定して「2022 年までに原発を全廃する」としていたことを変更していた。しかし、福島原発事故後、メルケル首相はすぐに動き出し、元へ戻した。

メルケル首相の動きは、早かった。福島原発事故から約 3 週間後の 2011 年 4 月 4 日、メルケル首相は「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」を設置。2 カ月間集中して検討・議論を積み重ね、2011 年 5 月 30 日に報告書を提出。報告書を受け取ったメルケル首相は、すぐ政策見直しに着手する。そして 2011 年 6 月 6 日、保守・革新にかかわらず圧倒的多数で「2020 年末までに全ての原発稼働停止」を閣議決定する。翌月には原子力法を改正し、法制化した。

ドイツが原発を廃止しても、隣のオランダが国境近くに原発をつくる計画を打ち出し、フランスにも多くの原発があるから意味がない、との意見もある。温暖化対策にしても、ドイツは世界の CO2 ガスの 3% くらいしか排出していないから、ドイツが頑張っても他の国が削減しなければ意味がない、という議論もある。

しかし、そういう考え方では何も変わらない。ドイツが自然エネルギーで成功している例を見せる。新しい経済、新しい産業モデルを見せることができれば他国もそれを採り入れる、と考えているのだろう。

福島原発事故から、5 年経つ。現在は、どうか。事故後、メルケル政権は「原子力エネルギー」から「再生可能エネルギー」へ大転換した。原子力エネルギー利用は責任を負えないのだから、再生可能エネルギーに転換する。ドイツの脱原発倫理委員会が提案したものだ。これまでも進めてきたが、加速させた。リスクのもっとも小さな代替手段がある以上、そちらに転換するのは当然で、脱原発は可能だという考え方。これを政策にして実行に移した。

「エネルギー大転換」政策のポイントは、簡単に言うと二つ。第一は、原子力を段階的・計画的に停止し同時に温室効果ガス排出も減らすため、「再生可能エネルギーの本格導入」と「省エネ」をセットで実施する。第二は、巨大発電所による集中型エネルギー供給から、エネルギー消費者自身がエネルギー生産者になって家庭用太陽光発電など「分散型エネルギー供給」に切り替える。電力の地産地消だ。

ドイツの再生エネルギーは、2010 年では 17% 以下であった。



それが 2012 年には 22% に。そして 2020 年までに 35% にする目標を立てている。こうすれば、原子力は必要ない。再生可能エネルギーのためには、インフラ整備が欠かせない。そのコストは、次世代への投資。国全体の経済発展を刺激する大きな要因にもなる。一時的に負担が増えても、次世代のことを考えて、ドイツは、舵を切った。

●さて、日本は・・・

日本は、「脱・脱原発」に舵を切った。逆回転だ。安倍政権は、2015 年 4 月、新たなエネルギー基本計画で、原子力を重要なベースロード電源と位置づけた。安全性が確認できた原発から、順次、再稼働する、とした。原発回帰だ。これが、原発事故を起こした国が再出発する指針なのか。

昨年 8 月に、九州電力川内原発が 311 後として初の再稼働。関西電力大飯原発と高浜原発、それに四国電力伊方原発も、再稼働へむけて準備を進めている。文科省は、福井県の高速増殖原型炉もんじゅの運転再開方針を変えていない。

官邸と経済産業省と電力業界関係者が作ると、こうなる。電力消費者である各地域市民の意見が反映されないと、こうなる。ドイツでは、将来どのようなエネルギーにするかは電力会社ではなく、「社会が決めるべきだ」と考えられている。安倍政権とメルケル政権の違いは、歴然だ。

関西電力大飯原発 3、4 号機の運転差止めを命じた 2014 年 5 月 21 日の「大飯原発差止訴訟」福井地裁判決（樋口秀明裁判長）では、「原子力発電所の稼働は経済活動の自由に属するものであって、憲法上の人格権の中核部分より劣位に置かれるべきもの」であると裁定した。

国と電力会社は、原発の再稼働が電力供給の安定とコストの低減につながる、と主張。これに対し福井地裁は、「多数の人の生存そのものに関わる権利と、電気代の高い低いの問題とを並べて論じるような議論に加わること自体、法的に許されない」とバツサリ！

その通り。これは単なる「経済」の問題ではない。次世代・次々世代のいのち、暮らし、生存そのものに関する「倫理」の問題だ。そうした視座・視点を中心に据えて考えていくべき問題だ。

メルケル首相は、2015 年 9 月 3 日、日本政府に対し、「日本で原子力発電を段階的に廃止する」ことを求めるメッセージを送った。さらに続けて、「もっとも信じ難いリスクが発生する可能性があります。だから私（メルケル首相）は他の人と 2022 年には最後の原子力発電所を配電網から削除することを決めました」と語った。

日本では、福井地裁が原発運転差止めとした判決が、昨年 12 月下旬の異議審で取り消され、以前に戻ってしまった。高浜原発 3 号機は 1 月 28 日に再稼働、4 号機も 2 月下旬の再稼働を目指している。

私たちは、どうするか。原発事故から 5 年となる今年の 3 月 11 日、福井を中心とする住民 3,000 人超は、原告となって、関西電力を相手に原発運転差止め訴訟を提訴する。この裁判に注目し、支援しよう。

私は今回のドイツへの旅で、確信と勇気を得た。前に紹介したドイツの脱原発倫理委員会の六つの結論のポイント、これを今一度私たちの社会でも確認し、脱原発へ向けて歩みを進めたい。以下に再録・共有して、本稿の最後としたい。

- ①原発の安全性が高くても、事故は起こり得る
- ②原発は事故が起きると、他のどんなエネルギーよりも危険
- ③次の世代に廃棄物処理などを残すことは倫理的問題

- ④原子力より安全なエネルギー源が存在する
- ⑤地球温暖化問題があるので、化石燃料を代替として使うことは解決策ではない
- ⑥再生可能エネルギー普及とエネルギー効率化政策で、原子力を段階的にゼロにしていけることは、将来の経済のためにも大きなチャンス (了)

在独女性グループ「ベルリン・女の会」との懇談 ドイツで生きる日本女性の心意気 水野 磯子 (名古屋市)

ドイツに生きる日本女性の「ベルリン・女の会」は「みどりの1kwh(1キロワット時)」のサイトを立ち上げた経緯を次のように語りました。

インターネットを通じて、日本で報道されていることを知れば知るほど、ドイツと日本の報道の落差に愕然。だったら自分たちの手でベルリンから日本へ向けて情報を伝えることができるかどうか、「ベルリン・女の会」は会合を重ね、「みどりの1kwh」のサイトの立ち上げを決意。3・11 東北大地震・原発事故は、あの第2次世界大戦に次ぐものだと、敗戦の日に因んで2011年8月15日にサイトはスタートしたと語る。

「会」のメンバーは、ジャーナリスト、建築家、研究者、翻訳家など80才から20代後半の70名余。2週間に1回の集まりを持ち意見交換をし、「みどりの1kwh」の発信をつづけています。読者の存在がとても励ましになっているとのこと。

これまで原発推進派であったメルケル首相は、3・11大惨事の直後に「高度な技術をもつ日本で起きた事故」に衝撃、脱原発へと大きく舵を切ることに。事故の直後「ドイツ脱原発倫理委員会」の発足です。

まもなく3・11 東北大地震・原発事故から5年。ドイツとくらべ、海外へ原発を売り歩く安倍首相の日本。



さて、ドイツのマスメディアの位置は、結構、社会での信用度は高く、“第4の力”といわれています。ちなみに第1の力は司法、第2は行政、第3は立法であり、第4はジャーナリズム、と私たちに語る。

では日本のマスコミとはといえば、「アベチャンネル」と揶揄されるほど。安倍政権よりの報道に対し、“心配だ”ときには怒りの声も。昨年来から“視聴者市民のためのNHKをとりもどそう”“初井会長は辞任を”の声の広がる中で、全国で20を超える市民団体が“放送を考える会”などの称で発足。愛知では昨年7月に約一年の準備期間を経て立ちあがっています。

韓国 の旅

光州・羅州・木浦と 「太白山脈」の舞台—宝城、筏橋

♥ 5月17日(火)～21日(土) 5日間

♥ 成田・関空発

143,000円 (25名様以上)

149,000円 (20名様以上)

※中部発をご希望の方はご相談ください

♥ 定員：25名/最少催行20名

(成田、関空ともに最少催行10名様)

♥ 添乗員：1名同行

♥ 申込〆切：4月15日



企画 全日本退職教職員連絡協議会

- ◎光州民主化闘争の経験者、退職教職員の皆さんとの交流及び「児童・生徒の人権条例」に関する懇談などを予定しています。
- ◎光州民主化闘争の舞台を訪ねます。
- ◎「太白山脈」文学館を見学。

- ① 日本⇒ソウル乗換え⇒光州 夕食交流会
- ② 光州 民主化闘争の舞台を見学、交流・懇談
- ③ 光州⇒羅州(布施長治ゆかりの碑等見学)⇒木浦見学
- ④ 木浦⇒「太白山脈」の舞台・宝城、筏橋見学⇒順天
- ⑤ 順天⇒倭城など見学⇒釜山⇒日本

この度私は、スリランカ出身の仏教僧ワールボラ・ラーフラ（1907-1997）師の『ブッダが説いたこと』を数年かけて英語から和訳し、来月には岩波文庫で刊行できる運びとなりました。この本は、1959年に出版されて以来、日本でこそまったく知られることはありませんが、世界的には最良の仏教概説書と高く評価されている名著です。私自身も、半世紀以上にわたる仏教研究の結果、まさに同じ意見で、本書を日本語で読めるようにできたことを、この上なく喜んでます。

そしてこの本の訳出には不思議な縁を感じます。本書には、20世紀フランス最大の中国学・仏教学の研究者であるポール・ドゥミエヴィル氏（1894-1979）による序言がありますが、彼こそ私のパリにおける恩師の一人に他なりません。

私は1969年秋に大学4年生でパリに留学した時以来、すでに現役を退官されておられたとはいえ、一線で活躍しておられた氏から親しく教えられる機会に恵まれました。これは研究者としての私にとって、最も幸せなことの一つでした。

本書の著者ラーフラ師は、訳者よりも10数年ほど前にパリに留学し、同じくドゥミエヴィル氏に師事しています。それゆえに師は、訳者にとってはドゥミエヴィル門下生の大先輩にあたります。

今こうして、フランス人恩師が推奨する、スリランカ人先輩の著作を日本語に訳出することになったわけで、「他生の縁」としか呼びようのないもの感じるとともに、喜びを禁じえません。本訳書が、日本人にとって、本来のブッダの教えの発見に繋がることを願ってやみません。



大興安嶺の麓 内モンゴルの旅へのお誘い

オフィス・モンゴル 内田 敦之（大阪、枚方市）

2015年9月中旬、満州国・内モンゴル地域（満州国・興安省）を訪問するツアーが催行され、同行させていただきました。

参加された皆さんは、走っても走っても緑の草原が続くモンゴル高原の広大さを実感された様子でした。行程としては短期間に見どころを詰め込みすぎ、移動距離が長く少し強行軍だったことは反省点です。

今回のツアーを踏まえて2016年夏のツアーでは、見どころをさらにしぼって移動距離を短くし、内モンゴルで最も美しい大自然（草原、河川、湖沼）を満喫しながら、ハイラル要塞、ノモンハン戦跡、トーチカなど満州国当時の歴史に学ぶコースを設定しました。それと同時に、中国に組み込まれた内モンゴルの歴史や現状にもふれる旅です。

学生時代にモンゴル語を勉強した私にとって内モンゴルは第二の故郷です。ただ、思い入れが強ければ強いほど冷静になって事実を知ることが大切だと思います。

モンゴル人からみた満州国とはどんな国だったのか、またそれが現在の内モンゴルにどのようにつながっているのか。戦跡を巡り、人々の話に耳を傾けながら、皆さんと一緒に考える機会になればとても嬉しいです。この機会にぜひd参加をご一緒ください。



フルン湖（ダライ=海と形容される内モンゴル最大の湖です）

写真撮影：内田敦之氏



エリクネ自然保護区（かつて内モンゴル各地にあったモンゴル草原をそのままの姿で見ることができます）

大草原と動物たち、満天の星そして

“モンゴル人から見た「満州国」を訪ねて”
ハイラル、ノゴーンノール湖畔、ノモンハン、オランホト

6/5(日)～6/12(日)の間の5日間もしくは6日間
217,000円～249,000円

- ① 関空・中部⇒北京 北京見学(泊)
- ② 北京⇒ハイラル 要塞、エウエンキ旗博物館⇒ノゴーンノール湖畔(泊)
- ③ ⇒ホーチンアルガ草原、ノモンハン戦争陳列館⇒アルシャーン見学(泊)
- ④ ⇒オランホト チンギスカン廟ほか見学(泊)
- ⑤ オランホト⇒北京⇒関空・中部

- 中部、関西発、中国国際航空利用
- 定員15名/最少催行10名
- 添乗員同行します。
- 申込〆切 4/28

※上記日程は5日間のもので、6日間になる場合はハイラル1泊が増えます。
※この時期は「新月」の時期。満天の星をご期待ください。



フルンボイル草原（草原に咲き乱れる高原植物とのんびり草を食べる馬群）

美術三昧

ザンクトペテルブルグ5日間

エルミタージュ美術館とロシア美術館
ネフスキー大通りの散策もどうぞ。

6/23(木)~27(月) 257,000円 中部発

- 添乗員同行
- 最少催行 10名様
- 申込〆切



企画 旅を愛する
人の会 えべや!

誇り高き歴史と文化を
旧ユーゴスラビアに訪ねて

ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、
モンテネグロ、クロアチアをめぐる

5/22(日)~6/5(日) 15日間 615,000円

- 関西・成田発トルコ航空利用
- 定員 20名最少催行 10名
- 添乗員なし。当社指名の現地
在住日本人ガイドがご案内。
- 申込〆切 4/4(月)



南米ペルーとブラジル 10日間

マチュピチュ、クスコ
とイグアスの滝



5/17(火)~26(木) 615,000円

- 中部・成田発 アメリカン航空利用
- 定員 15名/最少催行 10名
- 添乗員同行。
現地にて日本語ガイドがご案内
- 申込〆切 4/8(金)



邪馬台国、万葉集の時代から元寇、秀吉の侵略、
そして朝鮮通信使をへて近現代まで
朝鮮半島と日本の文化の
交流史を訪ねます。

5/24(火)~30(月)
6/21(火)~27(月)

167,000円 (15名様以上)
177,000円 (6名様以上)

壱岐・対馬5日間

125,000円 (15名様以上)
135,000円 (6名様以上)

- ◎博多駅集合・博多港解散
- ◎添乗員 15名様以上で同行



壱岐・対馬・釜山

「ブータンに魅せられて」

「ブータン仏教からみた日本仏教」の

著者・仏教史研究者 今枝由郎先生とゆく

日本-ブータン外交関係樹立
30周年記念 特別企画

ニマルン寺のツェチュ祭 & パロ、ティンブー

6/11(土)~19(日) 9日間 359,000円

この寺のグル・ツェンゲのチャム=仮面舞踏は、チベット仏教
圏でも唯一の独特な演出があります。加えてニマルン寺の僧侶は
法要、舞踏の華麗なことではブータンでピカイチです。チベット
仏教圏という観点からしたら、最も充実したプログラムです。



- ① 関西・中部→バンコク(泊)
- ② バンコク⇒パロ⇒ティンブー(見学・泊)
- ③ ティンブー⇒パレラ⇒トンサ(泊)
- ④ トンサ⇒チメ谷(見学・泊)
- ⑤ チメ谷(ニマルン寺ツェチュ祭見学・泊)
- ⑥ チメ谷⇒プナカ郊外(途中、見学・泊)
- ⑦ プナカ⇒パロ(パロ見学・泊)
- ⑧ パロ⇒バンコク(泊)
- ⑨ バンコク⇒関西・中部

注：成田発をご希望の方はご相談ください。

8/4(木)~7日間又は8日間

朝鮮通信使の歴史を重点に、釜山の通信使歴史館なども
見学。周辺の古代伽耶史蹟を巡る。(料金など詳細は近日発表)

注、当初、対馬アリン祭が実施された場合は、その見学を予
定していましたが、3月8日現在、まだ実施されるかどうか
未定です。実施されない場合は通常の「壱岐・対馬・釜山」の
行程となります。

美しい自然と隠れキリシタンの歴史を訪ねる

五島列島の旅

6/15(水)~18(土)
81,000円

- ◎博多港集合(夜)
長崎港解散(午後)
- ◎定員 10名/最少催行6名
- ◎添乗員は同行しません。



詳しくはお問合せください。資料をお送りします。

【企画・実施】観光庁長官登録旅行業第1329号 JATA正会員 ボンド保証社員

Kirameki☆tour (株)富士ツーリスト

〒460-0011 名古屋市中区大須4-1-9 菱水ビル ☎0120-898928

☎052-261-4621 Fax 052-251-6913 mail@kirameki-tour.jp

「きらめきツアー」で簡単検索

総合旅行業種別管理者：塚本愛子

予告版

8月 台湾 歴史・文化と食の旅

9月 英国

9~10月 百済祭参加 韓国の旅

10~11月 東西縦断・キューバの旅

10~11月 「映画の旅」ヨーロッパ

チャプリン博物館を訪ねる...